

実施日：6月2日（木）	
領 域：教科（英語）	
取組名：協同学習	
対 象：2年生	実施場所：英語教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> 『協同学習』を通して、授業を受ける意欲の向上（わかるよろこび）、学力の向上（一人では到達できないレベルに仲間とジャンプ）や仲間との好ましい人間関係の育成（信頼関係と子どもの居場所づくり）に取り組む。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの学びを大切に「分かる授業」「楽しい授業」を創造するために、どのように授業をすれば、こぼれ落ちる生徒をつくらず、すべての子どもに、質の高い学びをもたらすことができるのかを検討する。 教え込む言語活動ではなく、使いこなせる言語活動へ導く。 自分の考えや表現を話す機会を与える。 仲間の意見をしっかりと聴くことで、自分たちの学びを深めさせる。 	
ウ 連携先：	
エ 連携にむけての取組	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> 全職員で授業参観し、その後、研究協議を行った。 授業後だけでなく授業前にも、指導案をもとに何度も授業内容を検討した。 自己有用感が持てる授業づくりをし、個々の生徒に毎回自他の評価をさせた。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> 研究協議で話し合う。 各教科の定期テストにより、生徒個人の興味関心や理解度を評価する。 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> 一斉指導では見落としていた個々の学びの様子が見えるようになり、「つぶやき」や「困り感」が感じられ、それを拾って周りにつなげることができるようになった。 全職員で取り組んだおかげで、教科や学年を越えて個々の生徒の話題や授業の取組を話す機会が増えた。 生徒からの自尊感情が育っているという意見が多かったので、今後も学校全体で個々を大切に授業作りに取り組んでいきたい。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> 何を学ばせるために「協同学習」をするのか、一つひとつの授業の課題設定に時間をかけて研究する必要がある。 聴く姿勢や発表する力をつけていく必要がある。「自分たちで授業を作り、深める」という意識をもっと高めさせたい。 「教えてくれる？」と聞ける関係、「わかる？」と相手を気にかける関係ができ、一人では到達できなかった課題を仲間と解決し、「分かる喜び」を味わわせることで、子どもたちの学習意欲を高めながら、よりよい集団づくりを行いたい。 	

